

2015.12
No.01

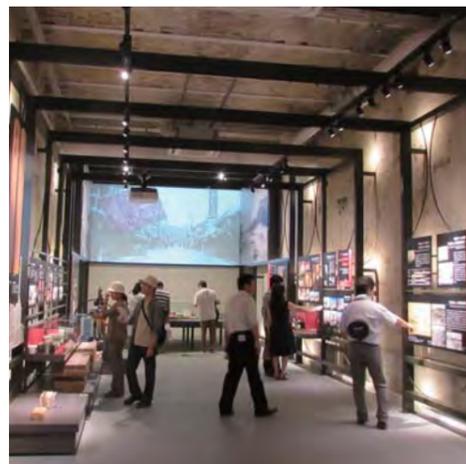
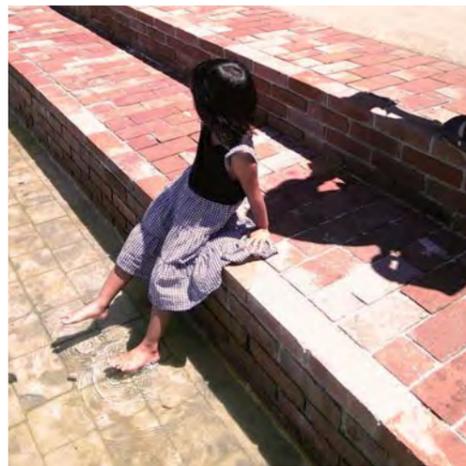
YASUI

ARCHITECTS
& ENGINEERS, INC.

街と、
Urban Design Works

ともにも成長する。





まちの宝物





街の誇りの再構築

カプトビールの生産は戦中に終え、以降この建物は様々な変遷を辿る。そして建設から100年の時を経て、再び街を牽引する役割を担うことになる。今回は工場ではなく、街のパブリックスペースとして。

半田市がこの建物を取戻・再生するという英断を下した背景には、市民の切実な思いがあった。一般社団法人赤煉瓦倶楽部半田の皆さんは早くから建物の価値に気づき、それを伝える活動を地道に行ってきた。皆さんと想いを共有する中で必然的に浮かんできたテーマは、街の誇りの再構築。先人たちの心意気を感じながら愛着を持って日々通い、ちよつと誇らしげにお客さんを迎えられる。そんな場所をつくりたいと考えた。

物語を空間に埋め込む

半田赤レンガ建物の魅力はとても多面的で奥深い。最初はとにかくその存在感にびっくり喜んで、空間の随所にちりばめられ

た知恵と工夫を知るほどに目から鱗が落ち、それでもなお謎が残されていて興味を尽きない。それをどう伝えるべきか。

こだわったのは、「カプトビールの時代」を、臨場感をもって伝えること。建設当初から残る壁や天井は維持しつつ、建具など戦後に変更されたものは極力オリジナルの仕様に復元した。そして空間演出においては様々な物語を埋め込んだ。例えば、建物各所の寸法は樽の大きさを基準に決められているが、それを伝えるために展示室（当時は貯蔵室）のフレームに実寸の樽をパターン化してデザインしている。こんな物語の一つ一つが、市民が誰かを案内する時に披露できるとおききのエピソードになる。

スタート地点から見える風景

2015年7月18日、ついに半田赤レンガ建物がオープンを迎えた。エントランスロビーでは原寸大の樽のオブジェが来館者を出迎え、陽当たりの良いカフェでは複製版カプトビール



1. 建物やカプトビールの歴史を紹介する展示室。映像や貴重な資料等が並ぶ
2. 複製版カプトビールが味わえるカフェ
3. 4. 毎月第4日曜に開催される半田赤レンガマルシェ&ワークショップ。知多半島の食やクラフトが並ぶ
4. マルシェ会場のレンタルスペースは元貯蔵庫

だしくらなんきちあかれんが

街の名所や通りの名前はよく数え歌になつていたりするが、半田の人は自分たちの街の売りを「だしくらなんきち」という小気味良い響きのフレーズで表現する。これは半田における観光の3本柱を並べたもの。全国的にも有名な山車祭り、運河沿いの醸造蔵の街並み、そして地元出身の童話作家で市立記念館もある新美南吉。

私たちが事業計画及び改修設計を担当した半田赤レンガ建物は、これらに続く4本目の柱として、また市内の観光エリアをつなぐ回遊の核として、地元の大らかな期待を背負っていた。「だしくらなんきちあかれんが」。これから定着するであろう新しいフレーズは、少し長いが語呂は悪くない。

1898年 先人たちの挑戦

半田赤レンガ建物が建てられたのは1898年。大規模なレンガ造建築としては国内屈指の古さで、

を味わおうと行列ができている。展示室は特に多くの人で賑わい、その横のクラブハウスではコンサートやワークショップなど様々なプログラムが来場者を楽ませる。

方々の表情は一樣に達成感に満ちていたが、その視線はすでに先を向いている。「やつとスタート地点に立てた」「今からが勝負」との言葉が多くの方々から合言葉のように聞かれた。夢のさらに先にある夢。その実現に、私たちも微力ながら引き続き関わっていきたい。(文・杉野)

東京駅丸の内駅舎や横浜赤レンガ倉庫より十年以上も早い。設計者として招聘されたのは、当時臨時国会議事堂などを手がけて評価が高まっていた妻木頼黄。この時代において、一地方都市の民間建築としては異例とも言える壮大な取り組みだった。



赤色部分が現存する建物 (提供: 竹内進コレクション)

Voice of person in charge

建物の謎に挑み続ける

展示の監修をされた一般社団法人赤煉瓦倶楽部半田の会員であり、長年、旺盛な研究心で半田赤レンガ建物の謎の解明に取り組んでおられる桑田さんにお話をうかがいました。



一般社団法人 赤煉瓦倶楽部半田 桑田治穂 さん

限られた写真や文献を頼りに、建物の謎についての自分なりの考察を少しずつまとめてきました。空間がこう使われていたのではないかと、という仮説を設計事務所の皆さんにぶつけたら、それに対してさらなる検証や別の見解が返ってきて、自分の中で新たな発見につながりました。結局、謎についての明確な答えはありませんが、こうして一緒に想像しながら話し合える仲間がいるのはうれしいことです。今でも建物を改めてじっくり巡ればまだまだ謎が見つかるはず。それをみんなで発見する探検ツアーをやれたら楽しいと思います。

また、今回の改修工事の過程において、その時にしか見られない貴重な建物の姿がありました。古い屋根を撤去した時に建物の奥の部分に光が差し込んだ瞬間など、素晴らしい写真が残されています。20年前に失われた幻の棟を、今となっては見られない一面も建物の魅力を伝える上での一つの切り口。それをポストカードにして多くの人に見てもらおうのもおもしろいのではないのでしょうか。

半田赤レンガ建物 handa-akarenga.jp

所在地: 愛知県半田市榎下町8
用途: カフェ、ショップ、展示室、クラブハウス
建築主: 半田市
敷地面積: 6,099.87㎡
延床面積: 4,979.51㎡ (うち活用部分2,729.93㎡)
構造: 煉瓦造 一部木造(ハーフトンバー構造)
規模: 地上2階 塔屋2階
竣工: 2015年6月 開業: 2015年7月

設計・監理: 安井建築設計事務所
施工: (建築) 清水・七番特定建設工事共同企業体 (展示) 乃村工務社 (展示監修) 赤煉瓦倶楽部半田 (外構) グリーン・ワイズ

創建時概要
用途: カプトビール醸造工場
設計: (基本) ドイツ・ゲルマニア機械製作所 (実施) 妻木頼黄
竣工: 1898 (明治31) 年

これまでの活動内容 2008-2015



小田原市長への提案風景



校舎のコンバージョンによる廃校利用提案
「小田原なりわい体験楽習館」

2009年1月 シュリンキング・シティ研究会設立

- ・人口減少時代の中、都市づくり提案のケーススタディとして、小田原市街地の今後のまちづくりについて、街区再生、中心市街地活性化、廃校利用の3つの視点で検討を行いました。
- ・2010年11月17日、これまでの検討成果を小田原市長に対して報告を行いました。

2011年3月11日 東日本大震災発生

2011年7月 震災復興組織設計協議会に参加

- ・設計事務所5社(安井、梓、久米、佐藤総合、松田平田)による震災復興組織設計協議会に参加しました。
- ・情報収集とリアス式海岸での復興モデルとして、岩手県山田町山田地区をケースに検討しました。
- ・2012年1月に山田町長へ提言を行いました。



リアス式海岸モデルイメージ鳥瞰パース

2012年3月 廃校の利用について提案

- ・2012年3月16日、足立区新田小学校及び新田中学校の廃校利用について、地域のコミュニティの活性化や減築などの視点で、活用策を資産活用課およびまちづくり課に対して提案を行いました。



足立区への提案風景

2013年2月 公共施設のあり方提案

- ・2013年2月26日、市民ホールを題材とした公共施設のあり方について提案しました。
- ・小田原芸術文化創造センターのプロポーザルを題材に、歴史都市におけるこれからの公共施設のあり方について検討を行いました。



小田原研究会の様子

2013年9月 地方都市地元勉強会への参加

- ・福島県国見町をケースに、震災復興の現状を把握するとともに、地方都市における中心市街地や廃校利用のあり方について検討しました。



小田原芸術文化創造センター提案パース

2014年1月～ PRE活用のこれからのあり方について検討

- ・「人口構造の急激な変化等によるサービス需給のミスマッチ」「都市の郊外化による非効率化」「地方公共団体の財政状況の悪化」などから、PRE(公的不動産=Public Real Estate)活用を行うことは、これからの都市や建築にとって重要なテーマであると考え、PREの事例収集や企画案件、プロポーザル案件を題材として、PRE活用のこれからのあり方について検討を行っています。
- ・2015年10月5日、「流山おおたかの森駅前市有地活用事業」の公募プロポーザルを提案し、PREの実現化への課題等を検討しています。



流山PRE提案
パース



研究会の様子(東海大学の学生さんが参加)



「RESEARCH ACTIVITIES」
LSD研究所が発行している
パンフレット、活動内容
等を紹介

近年、社会状況の変化に対応して、人々のライフスタイルは複雑多様に変化してきています。この変化が都市や建築をどのように変えていくのか。このことは都市計画や建築設計を行っている組織として常に関心事であり研究のテーマでもあります。そこで、こうした観点から社内外の「知恵の連携と統合」を進めながら、これからの都市計画や建築設計について、さまざまなテーマのプラットフォームを用意し、多くの提案を行ってきたいと考えて2008年度に設立したものが、「ライフスタイルデザイン研究所(LSD研究所)」です。

ライフスタイル
デザイン研究所って、
何の研究所？



どんな活動を
しているの？

ライフスタイルの変化によつて、都市や建築がどのように変わっていくのか、そしてその変化の中で近い将来に必要なものは何かを具体的な形で社会や事業者提供することが、「ライフスタイルデザイン研究所」の主な活動目的です。

このため、社会トレンドやライフスタイルの変化を予測することが重要であり、現在課題となっている人口減少や少子高齢化、それに伴う様々な課題にスポットを当て、研究・提案を行っています。

なお、研究にあたっては、東海大学杉本教授や芝浦工業大学山教授と共同して、研究を行っています。
(文・須藤)



この秋、参加・実施した主なイベントをご紹介します。(文・栗山)

東京
event

平河町ミュージックス



地域との連携や活性化、音楽文化の醸成を目的に、当社も運営に協力している「平河町ミュージックス」。当社東京事務所1Fにあるインテリアショップ「ロコバ」を会場に、春と秋の年6回開催しており、今年で6年目を迎えました。音楽を身近に感じられるアットホームだけど贅沢なコンサートです。今年の秋季公演は、9/18、10/16、11/20に開催され、尺八やアフリカのジャンベ(打楽器)、ヴァイオリン、アカペラなど、各回個性的かつ魅力的な演奏が繰り広げられました。演奏後のひととき、演奏者とお客様との交流タイムも人気の一つ。毎回厳選される曲にちなんだワインを楽しみながら楽器や音楽について熱く語りあっていたりしていました。

大阪
event

北大江 たそがれコンサート WEEK



当社大阪事務所が活動に参加している「北大江地区まちづくり実行委員会」が主催の秋の恒例イベント(10/10〜17開催)。北大江(大阪市中央区)のまちが音楽に包まれる1週間。なんと今年で10回目!お店やギャラリー、公園等を会場にコンサートや楽器の体験レッスン等が開催され、子供から大人までたくさんの方が音楽を楽しみました。メインプログラム「北大江公園夜の野外コンサート」は、この日のために編成された60名を超える弦楽オーケストラによる迫力ある演奏と客席から突然現れたコーラス隊による第九の合唱が夜のまちに響き渡りとても感動的でした。例年、雨が降ったり寒かったりと油断できない公園コンサートですが、今年は天気に恵まれ過ぎやすい夜になり、1000名を超えるお客様とともに、演奏者もスタッフも、ゆったりと音楽を楽しむことができました。

安井オープンハウス

毎年、「北大江たそがれコンサート」にあわせ、大阪事務所1Fロビーを開放し、作品を紹介する「安井オープンハウス」(10/14・15開催、今年で8回目)。創立90周年を迎えた当社、今年100周年へ向けてつないでいく新たな一歩のはじまりの年、ということ、そこに集うさま

生きた建築ミュージアム フェスティバル2015

「生きた建築」を通して、一味違った大阪を感じられる大阪市主催のイベント。通称「イケフェス」。

建物所有者や設計者、建築好きなど様々な人がボランティア参加し、イベントを盛り上げます。2013年、10プログラム12建物公開から始まったイケフェスは、3回目となる今年、120プログラム87建物公開にまで広がりました。近代建築から今年竣工したオフィスビル、昭和レトロな喫茶店など、様々な建物が公開、食事しながら水辺建物を見学するクルーズツアーや子ども限定ツアー個性的なプログラムがあり、多くの方がまち歩きとともに建築を楽しみました。当社は、「まちと駅の関係」をテーマにしたツアーを開催。大阪事務所でレクチャー開催後、当社



が設計した京阪中之島線4駅の駅舎を見学し、中之島というまちとの関係を意識したコンセプトやデザインについて京阪中之島の魅力をたっぷりじっくりご案内しました。イケフェスは、ロンドンで開催されている大人気イベント「オープンハウスロンドン」(毎年9月の2日間、800建物公開)をモデルにしており、イケフェスもロンドンのように海外からも集客できるようなイベントに発展していきたいと、関係者一同盛り上がっています。来年以降のイケフェスもお楽しみに!

